

## 2025年度第1回町田駅周辺帰宅困難者対策協議会 議事録

<b>日時</b>	2025年7月9日（水） 15時00分～16時30分
<b>場所</b>	町田市庁舎3階 災害対策本部室（会議室3-1、3-2）
<b>出席者</b> （敬称略）	<p>■会長 町田市 防災安全部長 大貫 一夫</p> <p>■委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小田急電鉄(株)町田駅（代理）町田駅副駅長 大谷 喜則</li> <li>・東日本旅客鉄道(株)町田駅（代理）副長 藤原 美香</li> <li>・神奈川中央交通(株)町田営業所（代理）副所長 久家 裕介</li> <li>・町田市町内会・自治会連合会（代理）会長 平本勝哉</li> <li>・警視庁町田警察署 警備課 警備課長 名地 健二</li> <li>・町田消防署 警防課 災害対策調整担当課長 佐藤 雄輝</li> <li>・神奈川県相模原南警察署 警備課（代理）警部補 石戸谷 悠</li> <li>・相模原市 危機管理局危機管理統括部防災計画担当課長 関口 康之</li> <li>・相模原市 危機管理局危機管理統括部防災対策担当課長 滝口 明子</li> <li>・相模原市 都市建設局まちづくり推進部交通政策課長 長澤 孝</li> <li>・相模原市 南区役所地域振興課長 並木 重人</li> <li>・(株)レンブランドホテルマネジメント レンブランドホテル東京町田 営業部セールス課支配人 山本 貴央</li> <li>・専修学校 河合塾 河合塾町田校 校舎長 高見 大樹</li> <li>・野村不動産ライフ&amp;スポーツ(株) メガロス町田 支配人 勇上 良輔</li> <li>・町田商工会議所 総務部副部長 齋藤 大典</li> <li>・(株)東急百貨店 町田東急ツインズ 営業推進・庶務 担当マネジャー 寺澤 俊治</li> <li>・(株)ユニカ 町田ジョルナ 不動産事業本部営業部営業課課長 西山 豪</li> <li>・(株)小田急百貨店 小田急百貨店町田店 店舗政策・運営部マネジャー 山本 薫</li> <li>・(株)ルミネ ルミネ町田店 総務部長 佐藤 正志</li> <li>・(株)ザイマックス ミーナ町田 総合不動産サービス推進事業部 商業施設マネジメント部 運営チーム 高羽 茂</li> <li>・町田市 財務部財政課長 高野 徹</li> <li>・町田市 財務部契約課長 佐々木 啓</li> <li>・町田市 財務部市民税課長 清水 鉄夫</li> <li>・町田市 市民部 （代理）市民総務課統括係長 荒木 一泰</li> <li>・町田市 文化スポーツ振興部文化振興課長 山田 雄介</li> <li>・町田市 地域福祉部福祉総務課 福祉総務課長 金子 和彦</li> <li>・町田市 保健予防課母子保健担当課長 山形 悠介</li> <li>・町田市 子ども生活部児童青少年課長 島崎 翔</li> <li>・町田市 経済観光部産業政策課長 村上 和久</li> <li>・町田市 生涯学習センター（代理）管理係主任 中村 由美子</li> <li>・町田市 町田市立図書館 （代理）副館長 本郷 剛</li> <li>・町田市 町田市民文学館 （代理）管理担当係長 荒井 敬介 （欠席委員）</li> <li>・(株)丸井 町田店 施設管理担当部長 石川 雅道</li> <li>・(一社)東京ハイヤー・タクシー協会 三多摩支部 町田地区会 山崎 龍男</li> </ul> <p>■オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都 総務局総合防災部防災管理課防災事業担当 課長代理 鎌田 智恵</li> <li>・東京都 総務局総合防災部防災管理課防災事業担当 原 奈美</li> <li>・町田市町内会・自治会連合会 町田第2地区 会長 中 一登</li> </ul> <p>■事務局 町田市防災安全部防災課 防災課長 宮坂 担当課長 佐藤</p>

	担当係長 主事	清水 林	担当係長 主事	齋藤 劔持	担当係長 主事	西本 荒井	主事	吉田
--	------------	---------	------------	----------	------------	----------	----	----

## 1. 開会

- 事務局開会

## 2. 挨拶

- 町田市防災部長 大貫 一夫
  - ・町田駅周辺地域エリア防災計画については、関係機関の皆様のご協力を賜り、2019年度に策定いたしました。今回の協議会は計画策定以来、約5年ぶりの開催となります。
  - ・帰宅困難者対策については、大規模な地震が発生した場合、行政だけで、十分な対策を実施することは困難でございます。行政としては関係機関の皆様との連携が重要であると考えております。引き続き、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
  - ・今回の帰宅困難者対策協議会では、ぜひとも闊達なご議論をしていただき、皆様から町田市の帰宅困難者対策に関するご意見やご要望をお聞きできればと思います。

<各委員による自己紹介>

## 3. 議題

### 町田駅周辺地域エリア防災計画の改定方針（案）について

- 事務局説明  
(資料1、資料2の説明)

<意見・質疑>  
⇒なし

<審議>  
⇒異議なしのため承認

## 4. 意見交換

- 【小田急電鉄(株)町田駅 町田駅副駅長 大谷 喜則】  
小田急電鉄町田駅では、災害時に町田管区長を「地区隊長」とし、複数の班に分かれて初期対応を行います。長時間運休の場合、200名が3日間補えるよう飲料水・非常用食料を備蓄し、帰宅困難者の対応を行います。過去の東日本大震災での経験をもとに、自治体との連携の重要性を認識し、利用者の不安解消に努めています。町田駅は小田急百貨店の中にあり、毎年2回の避難訓練と初期消火訓練を実施しています。今年は4月にファッションウォークテナントでの避難誘導訓練を行いました。

- 【東日本旅客鉄道(株)町田駅 副長 藤原 美香】  
町田駅では、災害時にお客様を指定避難場所に案内し、トイレの提供を行いますが、お客さまを収容できるスペースがないため、一時滞在場所は開放できません。立ち入り禁止区域は線路とホームです。受入想定人数は370名程度で、飲料水や食料品、簡易トイレ、トイレテント、エマージェンシーシート、エアマット等の災害用備蓄品を提供します。東日本大震災時には、落下物で改札内が危険だったため、お客様をコンコースから改札の外に案内したということを知っています。現在、年1回の避難場所への誘導訓練を実施しています。

○【神奈川中央交通(株)町田営業所 副所長 久家 裕介】

当社では、災害時のバス運行について、運行可能な台数や道路状況、乗務員の人数を考慮し、通常の便数を調整する予定で、道路の破損状況に応じて、迂回運行や運休が必要になる場合も想定しています。「人命最優先」を掲げる防災方針のもと、春と秋の火災予防運動期間中に消火訓練を行い、本社指導で大規模地震発生時を想定したバスとの通信訓練も実施しています。また、年度末には大規模事故を想定した総合的な避難訓練を行い、安全で迅速な対応を習得しています。

○【(株)レンブラントホテルマネジメント レンブラントホテル東京町田 営業部セールス課支配人 山本 貴央】

当ホテルは町田市と協定を結び、一時滞在施設として指定されています。東日本大震災当時、「帰宅困難者」という概念もなかったため、帰宅困難者への対応という点では後手に回ったというのが正直なところです。連泊のお客様、早めにチェックインしたお客様を中心に低層階への避難誘導を実施、停電のため1階と2階、また3階のロビーにお客様を避難させました。停電後もエレベーターが使えず、非常階段を使用して案内しました。コロナ禍以降は、部門ごとの細かな訓練を実施しています。地震発生に伴い身の安全の確保→火災発生→初期消火→避難誘導という基本的なことを行っています。備蓄品は従業員56名とお客様124名の2日分を用意し、水や食料、簡易トイレなどを備えています。地下の宴会場は大人数を収容できますが、停電時に誘導できないため、帰宅困難者受け入れの課題としています。

○【(株)小田急百貨店 小田急百貨店町田店 店舗政策・運営部マネジャー 山本 薫】

当店では、災害時に安全の確保、避難経路の確保、避難誘導を行う計画を立てています。毎月1回、各フロアで自衛消防隊による防災訓練を実施し、半年に1回は新宿店、町田店、藤沢店の3店舗で情報伝達訓練を行い、震度5以上の地震を想定した連携を強化しています。東日本大震災の際には、営業を停止し、お客様を安全な場所に誘導し、避難施設や避難広場（芹が谷公園）を紹介しました。

→【会長 大貫部長】

帰宅困難者が発生する場合には、警察や消防などの関係機関との連携が必要です。警視庁町田警察として駅周辺での対応について大まかに教えていただきたい。

→○【警視庁町田警察署 警備課 警備課長 名地 健二】

3.11の震災時、幹線道路が人と車で止まり、警察官は本部から出られない状況になりました。警察はまず救出・救命に取り組み、その後交通の復旧を行います。町田駅周辺では帰宅困難者が交番に情報を求めに来るため、警察官の業務が滞る問題がありました。解決策として、一時滞在施設の情報をまとめたパンフレットを交番に常備し、訪問者に配布できればと思います。これにより、警察官が効率的に情報提供を行い、重要な業務に専念できるようになります。全署員への情報共有も必要であり、パンフレットの活用がその解決策として挙げられるので、その点をご配慮いただければと思います。

→【会長 大貫部長】

現在、一時滞在施設の地図が一部変更されており、施設が変わっているため、見直しが必要です。警察が訪問者に情報を提供する際には、最新の地図を渡し、自助努力で帰宅するよう促すことも必要かと思います。

○【神奈川県相模原南警察署 警備課（代理）警部補 石戸谷 悠】

警察の第一の任務は人命救助であり、その後は道路や建物の被害状況を把握し、消防や自衛隊と情報共有を行うことが重要です。相模原南警察庁管内の多くの企業からの帰宅者が町田駅に向かうことが予想されるため、地域課や交通課が道路の各所で信号機の滅灯に対応し、交通整理を行います。帰宅者が町田駅に集中しないよう、相模大野駅や古淵駅などに分散させる案内が必要だと思います。また、イベント時の雑踏事故を警戒し、町田駅への過度な集中を避けることで、事故リスクを軽減する必要があると感じます。

→【会長 大貫部長】

またその他に、デパートでエレベーターが停止する場合、東京消防庁の救助隊が人命救助を行う必要があることがあります。それについて何かありますか。

→○【町田消防署 警防課 災害対策調整担当課長 佐藤 雄輝】

火事や地震の際にエレベーターが最下層で停止せずに途中で止まることもあり、これが閉じ込めの原因になります。特に非常用でない通常のエレベーターは復旧に時間を要する可能性が高いです。また、3.11の震災時には、渋滞の影響で消防署に戻るのに時間がかかり、通常の救急対応も遅延した経験があります。こうした災害時には救急車の手配が困難になるため、複数の軽傷者を一度に搬送する方法や、人員輸送車であるマイクロバスで搬送する方法を検討しています。また、医療機関の方も受け入れが非常に難しいということから、一時的な緊急医療救護所を開設してそこでトリアージをして重傷な方から順次医療機関に搬送していく訓練をやっている段階です。エレベーター内での閉じ込めが発生した場合は、状況をお伝えいただければ優先的に救助に向かわせていただきますのでよろしくをお願いします。

→【会長 大貫部長】

町田駅周辺では、JR や小田急に向かうペDESTリアンデッキに多くの人が集まる可能性があり、原町田大通りへの移動が生じれば、神奈中バスの運行に支障をきたす恐れがあります。道路の封鎖やトリアージの配置をどうするかが課題となり、今後の計画において考慮が必要です。道路事情や運行状況の変更を踏まえ、今のこういった町田駅周辺での計画について何かありますか。

→○【相模原市 危機管理局危機管理統括部防災計画担当課長 関口 康之】

相模原市では、帰宅困難者を13,000人と想定しており、一時滞在施設として18施設で約8,900人を収容可能です。しかし、町田駅周辺ではラポール千寿閣の閉館により施設の確保が困難な状況です。東日本大震災時には、橋本駅で約1,700人の帰宅困難者が発生し、一時滞在施設が確保できなかったため、近隣の小中学校の避難所に誘導しました。

○【相模原市 危機管理局危機管理統括部防災対策担当課長 滝口 明子】

東日本大震災の対応として、駅からの帰宅困難者が物資を取り合わないよう、水や毛布を自分たちの後ろに高く積み上げる工夫をし、安心感を与えました。このように、安心感を与える取り組みが重要であると考えています。

→【会長 大貫部長】

東日本大震災の際には市民ホールに避難者を誘導しましたが、今後は効率的な避難誘導のために地図を配布し、帰宅困難者を適切に案内し滞留を少しでも減らすことが有効かと考えます。毎年の会議で関係者との顔が見える関係を築き、課題を整理して計画を進めることが重要なので、お力をいただきたいと思います。

→○【町田市 財務部契約課長 佐々木 啓】

大きな災害時、例えば東日本大震災の際に町田市役所に問い合わせた経験がある方に、その際に何を求めて連絡したのかを教えてください。市役所は多くの問い合わせで混乱する可能性があるため、その経験を共有することで対応の改善に役立てたいと思います。

→【会長 大貫部長】

災害対策報告ではライフラインの復旧状況を知ることが重要であり、東京電力や東京ガスなどの関係機関が参加し市長を中心に災害対策会議を開き、情報提供の順序を決定します。自衛隊の派遣についても検討され、状況によっては座間の基地からの派遣が考えられます。市民が何を知りたいかを議論し、1月の会議で共有できればと思います。意見があれば事務局に提出願います。

○【(株)レンブラントホテルマネジメント レンブラントホテル東京町田 営業部セールス課支配人 山本 貴央】

町田市役所の代表番号と自社の代表番号が似ているため、停電復旧後に市役所宛での誤った問

い合わせが多く寄せられました。対応できる範囲を超える質問が多く、電話対応に多くのスタッフを割く必要がありました。避難場所や帰宅困難者の受け入れについての情報を迅速に提供できるように、社内教育はもちろんですが、お客様に渡せる資料、簡単に答えられる問答集の作成を希望します。

→【会長 大貫部長】

山本支配人や名地課長の提案を受けて、問い合わせ対応のための Q&A や地図があると便利であり、これを関係機関に設置することで、問い合わせ対応が改善される可能性があるため、この提案を今後の計画に組み入れていきたいと思います。

○【町田市町内会・自治会連合会（代理）会長 平本勝哉】

町内会自治会は、住民の避難所の開設が重要な役割となります。帰宅困難者が多数発生し、市民ホールや地域の避難所に集まったことを踏まえ、町内会として避難者の対応や施設の役割分担について考える必要があると同時に、地域住民に対して帰宅困難者の避難場所や行動指針を事前に周知しておくことも必要だと思っています。

→【会長 大貫部長】

3.11 の際には町田市内の避難所はすべて開設されたものの、避難者よりも帰宅困難者が多く滞留しました。特に、小山ヶ丘のコストコでの崩落事故がありましたが、火災は少なかったため、救助活動に重点を置けたのかなと思います。避難所には 71 の施設が開けられましたが、滞留のピークは 6～7 時間ほどで、その後は帰宅する人が増えました。今後は帰宅困難者の一時避難場所の確保や対応の改善が必要かと思っています。

## **5. 情報共有**

**（１）民間一時滞在施設への支援事業について【資料３】**

**（２）事業所防災リーダーについて【資料４】**

○【東京都 総務局総合防災部防災管理課防災事業担当 原 奈美】  
（資料 3、4 の説明）

→【会長 大貫部長】

ありがとうございました

次回の町田駅帰宅困難者対策協議会は、2026 年 1 月 14 日（水）に開催予定です。

## **5. 閉会**